

図書館員のひみつの本棚 第186回

今月は、のんびりした王さまと、その王さまをやさしく手助けしてくれるねこが活躍するお話を紹介します。

『ねこと王さま [1]』 2019年 ¥1600 (税別)

ニック・シャラット／作・絵 市田 泉／訳 徳間書店

<お勧め年齢>

乳幼児★★☆ 小低学年★★☆ 小中学年★★★ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆ (★が多い年齢の子どもにお勧めです)

<本の紹介>

王さまは、召使いに上手に指示を出したりして手助けしてくれる、一番の友だちであるねこと、お城で暮らしていました。ある日、火をふくドラゴンがお城を燃やしてしまい、王さまたちは、街なかにお引越することになります。

お城にいたころは身の回りのことを召使いにやってもらっていたので、王さまは一から買い物や食器洗いを覚えなければなりません。ねこの手助けと、王さまの威厳で、なんとなく上手くいき、楽しそうに乗り越えてしまうところが、可笑しい作品です。

<子どもに手渡す時のポイント>

洗練されたシンプルな線で描かれる可愛らしい挿絵が、ほとんどのページにあり、王様たちが買い物をした家具や食料品などの絵が並んでいて、絵を追うだけでも楽しめます。

お話も12章の分けられ、各章10ページ程度でまとまっており、子どもにあわせた読み方ができるので、読んであげるなら幼児や小学校低学年、自分で読むなら中学年まで、幅広く楽しめます。

お話が気に入った子には、続編の『ねこと王さま [2] しごとをさがす』(2021年 ¥1700 (税別))を是非手渡してあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

